

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6月 11日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：26780272

研究課題名(和文)非正規滞在者の社会統合を目指す歴史比較社会学的研究

研究課題名(英文)Historical and sociological study on the integration of irregular migrants in Japan

研究代表者

朴 沙羅 (Park, Sara)

神戸大学・国際文化学研究所・講師

研究者番号：40726973

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間中に外国人支援のNPOで参与観察を行い、日本国内にてインタビュー調査を行った他、日本国内および大韓民国、アメリカ合衆国の公文書館で太平洋戦争直後の非正規な移住と民間貿易に関する文書を収集した。またフランス・ドイツ・オーストリアにて、難民申請者や移住者を支援するNPO法人や企業、地方自治体から資料を得、ヒアリングを行った。その結果、研究期間中に博士論文を単著化し、さらに1冊の単著と翻訳書1冊と共編著1冊、査読付きの国際ジャーナルに4本、国内ジャーナルに4本の単著論文が出版された。研究所への項目等執筆、海外研究報告集会での口頭報告や査読なしの論文・文章等の刊行は多数あるが列挙しない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在の日本社会における非正規滞在者の状況を理解し、統合するためには日本社会や法制度が外国人なるものを継続的に生み出してきた論理を理解することが欠かせない。そのため、本研究期間中には、「オールドカマー」「ニューカマー」に共通する制度的背景とそれを支える諸規範が、日本人ならぬものを外国人として一括することを可能にすること、出入国管理政策は外交政策・国内政治・国際関係と密に連携されていること、ただし行政の裁量権が大きいこと、政治レベル・政策レベルで検討され議論されていたことは異なるロジックによって政策が実施されることが明らかにされた。

研究成果の概要(英文)：During the funding period, I conducted participant observations in a local NPO that supports migrant families, including asylum seeking process and citizenship acquisition. I also conducted interviews to both regular irregular and migrant families as well as hearings from NPOs, companies and municipalities that supports asylum seekers and new-coming migrants in Germany, France and Austria. Moreover I collected documents on irregular migration and trades that took place around Japan just after its surrender in 1945. As the results, I published four internationally peer-reviewed articles, four peer-reviewed articles two monographs, a translation a co-authored book, and uncountable international conference papers and non-peer reviewed articles.

研究分野：社会学

キーワード：非正規滞在 国民国家 植民地支配

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国際移民が増加する中、日本でも外国人人口が増加し、外国人に対してどのような社会を実現するのが問題となりつつある。近年のヘイトスピーチの激化に伴い、在日コリアンをはじめとしたオールドカマーをいかに日本社会に統合していくのかという問題は深刻化している。他方、ニューカマーの増加とともに、非正規滞在者の存在が社会問題として取り上げられてきた。2012年に在留制度が変更されて以後、非正規滞在者は公的に身分を証明する手段を失い、就労や住居・携帯電話の契約など日常生活での困難に直面する者が急増していると考えられている。

国際移民の理論的研究は、移住動機を明らかにしようとしてきた。まず送出国と受入国との経済格差に注目する経済学的アプローチが唱えられ、次いで経済学的アプローチへの対抗軸として家族・親族のネットワークや移民個人のエージェンシーに注目する研究が現れた。しかし、これらのアプローチは「なぜこれほど少ない人数しか実際には移民しないのか」という問題に答えられていない(Joaquin Arango, 2002, “Explaining migration”, *International Social Science Journal*)。他方、外国人の法的地位研究を扱った諸研究では、法学的・政策的アプローチが主流であり、しばしば非正規滞在者は難民受け入れと共に議論されているが(近藤敦ほか, 2010, 『非正規滞在者と在留特別許可』日本評論社)実際にその法制度が関係者によってどのように運営されているのかを検討してはいない。

移民の移住動機と統合過程に関する研究は、送出し地域で移住動機が形成される時、また移住地で法的地位が決定される時に辿られる、移住と統合が実際に具体的な手続きを通して行われる個別具体的で「些細」な過程については、これまでそれほど注目してこなかった。しかし、実際に移民個人の法的地位を決定するのは法令だけでなく、具体的な状況に即して法令を運用する行政窓口の職員(Michael Lipsky, 1980, *Street-level bureaucracy*, Russel Sage Foundation)や、それに対応する移民個人ではないだろうか。移民の地域社会へのスムーズな統合はいかにして行われるべきかを検討するためには、法的・政策的な検討もさりながら、移民個人とその家族、さらには行政官吏との具体的なやりとりを通して、移住や移民に対する公的サービス・管理を可能にしている知識・規範までを明らかにしなければならない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本における移民受入の歴史と法制度に即した移民統合の実態を明らかにし、外国人住民の統合を社会的レベルで達成する方法を探ることである。そのため、特に非登録移民(非正規滞在者)を対象に、彼らが移住する原因と、法的地位を獲得するプロセスの2点を明らかにする。本研究の特徴は、これらの調査の中で移民個人と彼らを取り巻く人々が実際に行っていることを観察し、その活動を可能にしている知識や規範を明らかにすることにある

3. 研究の方法

本研究は、個人史/家族史と法制史を検討する歴史的観点と、支援団体等における対面的相互行為の観察という社会学的観点の両者を併用する。個人史/家族史調査は主にインタビュー調査に、法制史調査は主に文書資料に依拠する。支援団体等における社会統合の方法を明らかにするにはインタビュー調査と参与観察を行う。日本の入国管理制度とその運営実態は植民地支配や敗戦、高度経済成長といった日本の近現代史と密接な関係にあり、現行の制度だけ、あるいは日本1ヶ国だけを検討しても、その問題点や特色は明らかにできない。そのため現在のところ急速な労働移民・国際結婚が増加している韓国、移民国でありつつ近年は強硬な移民管理政策を進めているオーストラリア、そして歴史的な植民地帝国として現在は国内に移民第2・第3世代の問題を抱えるフランスの3か国において比較調査を行う。

4. 研究成果

研究期間中に外国人支援のNPOで参与観察を行い、日本国内にてインタビュー調査を行った他、日本国内および大韓民国、アメリカ合衆国の公文書館で太平洋戦争直後の非正規な移住と民間貿易に関する文書を収集した。またフランス・ドイツ・オーストリアにて、難民申請者や移住者を支援するNPO法人や企業、地方自治体から資料を得、ヒアリングを行った。

その結果、研究期間中に博士論文を単著化し、さらに1冊の単著と翻訳書1冊と共編著1冊、査読付きの国際ジャーナルに4本、国内ジャーナルに4本の単著論文が出版された。研究所への項目等執筆、海外研究報告集会での口頭報告や査読なしの論文・文章等の刊行は多数あるが列挙しない。

5. 主な発表論文等

書籍(単著)

・『家(チベ)の歴史を書く』筑摩書房, 2018年9月

・『外国人をつくりだす: 戦後日本における「密航」と入国管理制度の運用』ナカニシヤ出版, 2017年7月

書籍(共著・編著・執筆分担)

Japanese female supporters

朴 沙羅

IOHA 2018 MEMORY & NARRATION, The XX International Oral History Association
Conference 2018年6月18日

・ Ideology or racism?

朴沙羅

25th International Conference of Europeanists 2018年3月28日

・「何が対話的に構築されるのか」

朴 沙羅

ライフストーリーとライフヒストリー : 『事実』の構築性と実在性をめぐって 2018年3月
14日

・史料の「構築」性を考える: 史料批判と社会調査の共通性をめぐって

朴 沙羅

エゴ・ドキュメント/パーソナル・ナラティブをめぐる歴史学と社会学の対話 2018年3月
11日

・「外国人」を作り出す: 占領期日本への移住と入国管理体制

朴沙羅

立命館言文研連続講座 2016年10月28日

・スティグマの公表: 「不法入国」をいかに語るか

朴沙羅

日本社会学会第89回大会 2016年10月8日

・‘ Rethinking the Root of Xenophobia in Contemporary Japan

朴沙羅

American Sociological Association: Annual Meeting 2015 2015年8月24日

〔雑誌論文〕(計 16 件)

〔学会発表〕(計 9 件)

〔図書〕(計 6 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2) 研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。